



植園拾葉

下

特別
イ 4
3163
19(3)



書
4
3/63
19(3)





桂周宗近撰草稿

憲致

憲

時子御方



あつたに高きものを増はける極の也は是れ
しるべきもく物さしとく人のふしきさるるはては
ふなるあつたに高き神の時社なるよるはるるは

可官

さいの事もくしりひりれよのこはたさるるは
あつたのこはたさるるは現身はぬらつたのこは
はつたのこはたさるるはさしをさるるはさるるは
あつたのこはたさるるはさるるはさるるはさるるは
あつたのこはたさるるはさるるはさるるはさるるは
あつたのこはたさるるはさるるはさるるはさるるは

刀美子

連流

道好

重然

貞経

あまの梅のしるしをまわすはよみあはれ
松のまはるるをわたりて書きおとせし
うきなみのうきをわたりてあはれ
あまの梅のしるしをまわすはよみあはれ
うきなみのうきをわたりてあはれ
あまの梅のしるしをまわすはよみあはれ
うきなみのうきをわたりてあはれ

あまの梅のしるしをまわすはよみあはれ
松のまはるるをわたりて書きおとせし
うきなみのうきをわたりてあはれ
あまの梅のしるしをまわすはよみあはれ
うきなみのうきをわたりてあはれ
あまの梅のしるしをまわすはよみあはれ
うきなみのうきをわたりてあはれ

道之爾

元古

讀人不知

法阿

刀美子

あまの梅のしるしをまわすはよみあはれ
松のまはるるをわたりて書きおとせし
うきなみのうきをわたりてあはれ
あまの梅のしるしをまわすはよみあはれ
うきなみのうきをわたりてあはれ
あまの梅のしるしをまわすはよみあはれ
うきなみのうきをわたりてあはれ

題不

松

香

松根

さうして後神射の川来つるのれんとて

不言恋

尹淳

ふしんくちかよふとていふはあはれなる

信根

ふしのまのつらさはあはれなるあまの

未又言恋

直好

しんじつとてまのこゝろをまへて命を惜み

思恋

連流

こゝろのあはれをいふはあはれなる

存文

しんじつとてまのこゝろをまへて命を惜み

敬

まのこゝろをまへて命を惜み

依思増恋

親山

今のまのこゝろをまへて命を惜み

思親昭恋

直好

まのこゝろをまへて命を惜み

思尋縁恋

正純

まのこゝろをまへて命を惜み

聞恋

直好

まのこゝろをまへて命を惜み

玄如

まのこゝろをまへて命を惜み

見恋

連流

高文とていふものなかりしはたまたま姫と申すに多し
ふすむ恋

情なきをなすものいふらんあはれなりけり

祈恋

こころをなすものなかりしはたまたま姫と申すに多し

高村

こころをなすものなかりしはたまたま姫と申すに多し

神祈恋

あまの神のなかりしはたまたま姫と申すに多し

連流

恋するものなかりしはたまたま姫と申すに多し

信恋祈身

刀美子

今より神を祈りてはたまたま姫と申すに多し

祈あまの恋

いふもの神のなかりしはたまたま姫と申すに多し

恋命

北の雄

こころをなすものなかりしはたまたま姫と申すに多し

恋命

連流

こころをなすものなかりしはたまたま姫と申すに多し

清根

こころをなすものなかりしはたまたま姫と申すに多し

知ぬ人

連流

こころをなすものなかりしはたまたま姫と申すに多し

神あまの恋

ふらふらと歩むるはなればなればの心づかぬ

後人不知

ちかみよらるる心づかぬはなればなればの心づかぬ

帰厚

未の意

重
逢不偶意
今
あまの心づかぬはなればなればの心づかぬ

幸文

なきりあめはなればなればの心づかぬ

和義
中時
刀美

ゆきの枝るはなればなればの心づかぬ

文秋

ふらふらと歩むるはなればなればの心づかぬ

享壽

兼晴別意

中らるる心づかぬはなればなればの心づかぬ

幸文

夏別意

枕するはなればなればの心づかぬ

後人不知

冬別意

あまの心づかぬはなればなればの心づかぬ

幸文

後朝意

けのまはらるる心づかぬはなればなればの心づかぬ

吉邦

う

うらみあはるる心づかぬはなればなればの心づかぬ

連流

あまの心づかぬはなればなればの心づかぬ

直好

あまのついでに社人といふ神のついで

後朝増志

五月

あまのついでに社人といふ神のついで

夕恋

千杖 佐夜

あまのついでに社人といふ神のついで

夕閑志

あまのついでに社人といふ神のついで

毎夕恋

直好

あまのついでに社人といふ神のついで

涼夜帰恋

あまのついでに社人といふ神のついで

惠岳

あまのついでに社人といふ神のついで

陽之夜恋

連胤

あまのついでに社人といふ神のついで

陽川恋入

幸文

あまのついでに社人といふ神のついで

陽遠恋志

方忠

あまのついでに社人といふ神のついで

遠恋

安子御方

あまのついでに社人といふ神のついで

経年恋

厚徳

あまのついでに社人といふ神のついで

名立恋

重見

折るはしめしめおのれをみてもし神をよむはつとええれ
稀恋 ま 直好

あまの想をよむおのれおのれをよむはつとええれ
之方おのれをよむおのれをよむはつとええれ
占恋 後人不知

るもあはれはつとええれ
思ふの上 連流

是ののれをよむおのれをよむはつとええれ
こころをよむおのれをよむはつとええれ
相思 直好

そふらふおのれをよむおのれをよむはつとええれ
思ふ ま 直好

こころをよむおのれをよむはつとええれ
被忘恋 直見

おのれをよむおのれをよむはつとええれ
文秋

おのれをよむおのれをよむはつとええれ
被忘恋 連流

おのれをよむおのれをよむはつとええれ
重見

おのれをよむおのれをよむはつとええれ
恨恋 近子

おのれをよむおのれをよむはつとええれ
連流

さしきりてあはれしうらなひのこころを

雪道

恨みの極みたる声なきあはれに恨を

連流

あはれしうらなひのこころを

観心

恨みあはれしうらなひのこころを

文秋

中よるまけりてあはれしうらなひのこころを

公燕羽信

うらなひのこころを恨えしうらなひのこころを

連流

嫉後書恋

うらなひのこころを恨えしうらなひのこころを

後人不知

あはれしうらなひのこころを

披書恨恋

あはれしうらなひのこころを

重就

恨みあはれしうらなひのこころを

絶恋

うらなひのこころを恨えしうらなひのこころを

幸文

秋の夕暮の静けさあはれしうらなひのこころを

欲絶恋

清樹

あふりたるあまらるるは庭原に絶えそめくちうまけり

秋絶恋

文秋

萩のまき枝のゆをぬりうたのり一人をさるるあまき

思貴人恋

清根

玉子のまき枝にまきうき物をさ九重のまき隔てけり

付

連胤

こころんまきていこころんまきていこころんまきてい

うき

まき

あつまるおまらあつまるおまらあつまるおまらあつまる

中いかにまきまきまきまきまきまきまきまきまき

香中恋

可宮

あまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

香

人妻

連胤

人ちまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

うき

白布の衣まきまきまきまきまきまきまきまきまき

閑居恋

芳子

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

恋里

道好

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

重出
連余

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

四輪中恋

清樹

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

猿宿恋

連胤

ら浪の成りてはさきほをいそぎのきむる人

あつ恋
等思西人恋

方忠

中たう浪のさうあつよひつをさるる志れり
老恋
重乾

春恋

中たの恋も折ぬる人社さるる下は
連乱

老人の恋は道々さるるなまをさるる
夏恋
香如

なつらわら子持母のさうあつよひつをさるる志れり
白貫

あつらわら子持母のさうあつよひつをさるる志れり
夏恋
直好

なつらわら子持母のさうあつよひつをさるる志れり
夏恋
直好

あつらわら子持母のさうあつよひつをさるる志れり
秋恋
國典朝臣

あつらわら子持母のさうあつよひつをさるる志れり
秋増恋
真弓

あつらわら子持母のさうあつよひつをさるる志れり
秋増恋
享壽

あつらわら子持母のさうあつよひつをさるる志れり
秋増恋
華文

遠のくも社高き山をのりて浦のほとけを

兼月恋

夜紙

はらばの夕たけの世にあらはれぬくも

聖雄

しるすもあまのこころはなほまよひの月

兼雪恋

連流

未終のこころはなほまよひの月

兼風恋

後不知

夕の月をのりてあまのこころはなほまよひの月

兼雨恋

紀成

あまのこころはなほまよひの月

あまのこころはなほまよひの月

あまのこころはなほまよひの月

カミ子

直好

あまのこころはなほまよひの月

あまのこころはなほまよひの月

兼雨恋

紀成

あまのこころはなほまよひの月

兼雪恋

連流

あまのこころはなほまよひの月

兼雪恋

清根

あまのこころはなほまよひの月

兼木恋

幸文

いふはしの夜のはげしの海をへて

紀言

あふはしの夜のはげしの海をへて

永知

あふはしの夜のはげしの海をへて

華文

あふはしの夜のはげしの海をへて

あふはしの夜

あふはしの夜のはげしの海をへて

後不知

あふはしの夜のはげしの海をへて

連流

いふはしの夜のはげしの海をへて

後不知

いふはしの夜のはげしの海をへて

あふはしの夜

いふはしの夜のはげしの海をへて

いふはしの夜のはげしの海をへて

あふはしの夜

いふはしの夜のはげしの海をへて

あふはしの夜

いふはしの夜のはげしの海をへて

文秋

いふはしの夜のはげしの海をへて

うらむるおのこはあまの物さへ何れもあはれん
常清

浪のうら海崎にたてるもねまの志あはれん
非の雄

お水鶏恋
お鷄もいづれぬまはうらぶる恋
浪人不知

足成れらるるよんはあはれん
直好

道しつらるるもむ物さへあはれん
久好

いづれも新らるる新らるるの秋もあはれん
浪人不知

寄馬恋

浪人不知

寄駒恋

あはれもあはれん
直好

秋のあはれもあはれん
浪人不知

恋す程もあはれもあはれん
浪人不知

風も秋のあはれもあはれん
浪人不知

岩も秋のあはれもあはれん
浪人不知

妹のあはれもあはれん
浪人不知

寄おのこ恋

浪人不知

ちりつとちりつとつらなをこらへて——とまきよきよきわやの

連胤 丑元

夕にその花を結ばねばならぬとてさういふけき

久致

おぼろのやまをよのすははぬと云ふまを結ばねば

清人 西知

柳をよみあはてたきさるゝと運とてふいふ

清樹

妹のあつちらうも海をよあける人よらう。

秀雄 歟

高き山をたのしみあふゆふのふらふらとあめ

きぬ

ふたつのおもひのつらさからいふはなれに

寄叔恋

康瓦

とらふはなれはあはれ物うらまはせしよらふけあはるる

新しき花のもよほけよむらさきとあはれ

道好

あやうらむひのまらあはれ妹うらまはせしよらふ

久致

未通あはれまことならしのあはれ女あはれま

清人 不知

海原やまのあはれあはれ月をよみさるゝあはれ

連胤

白布の衣をよみ折して——とまきよきよきわやの

寄系恋

寄夢窓

ゆめたたみ

よしののしほはよのくさくは花あはれはれはれ

直好

足あはれおぼえよしはよすらしあはれはれはれはれ

あはれはれおぼえよしはよすらしあはれはれはれはれ

くち

ま

美人不知

あはれはれおぼえよしはよすらしあはれはれはれはれ

連流

あはれはれおぼえよしはよすらしあはれはれはれはれ

直権

あはれはれおぼえよしはよすらしあはれはれはれはれ

あはれはれおぼえよしはよすらしあはれはれはれはれ

梅女流

あはれはれおぼえよしはよすらしあはれはれはれはれ

律の格律たはれおぼえよしはよすらしあはれはれはれはれ

けうけのまきまきおぼえよしはよすらしあはれはれはれはれ

女二人

あはれはれおぼえよしはよすらしあはれはれはれはれ

桂園宗匠撰草稿
雑歌

雲

うららかにの聲をたふるもあはれいかにいふも
雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲

後人不知

燈

あけそよごの光ける影はし時のそよごも
夜燈 自体

雲中

あけそよごの光ける影はし時のそよごも
雲中 雲中 雲中 雲中 雲中 雲中 雲中 雲中 雲中 雲中

直好

あけそよごの光ける影はし時のそよごも
時 時 時 時 時 時 時 時 時 時

可官

あけそよごの光ける影はし時のそよごも
あけそよごの光ける影はし時のそよごも

漢火 嘉之

文附多...

漢火

魔王

はく...

阿乞

さき...

火

様...

漢翁

清樹

光...

漢翁

眉生

綱...

時子御方

は...

翁

昌敷

ろ...

野

漢人

神代...

谷野

記...

下

弟

う...

葉

さ...

却て...
少木...
...
...

...
...
...

重見

義勇

...
...
...

...
...
...

曉天出

千秋

暮山雪

...
...
...

久致

富士

後孝

...
...
...

...
...
...

...
...
...

久致

松山

華文

...
...
...

神奈川の浦の海
神浦 包

神奈川の浦の海
神浦 包

神奈川の浦の海
神浦 包

神奈川の浦の海
神浦 包

神奈川の浦の海
神浦 包

神奈川の浦の海
神浦 包

神奈川の浦の海
神浦 包

神奈川の浦の海
神浦 包

神奈川の浦の海
神浦 包

神奈川の浦の海
神浦 包

神奈川の浦の海
神浦 包

神奈川の浦の海
神浦 包

神奈川の浦の海
神浦 包

神奈川の浦の海
神浦 包

神奈川の浦の海
神浦 包

神奈川の浦の海
神浦 包

神奈川の浦の海
神浦 包

神奈川の浦の海
神浦 包

神奈川の浦の海
神浦 包

神奈川の浦の海
神浦 包

神奈川の浦の海
神浦 包

神奈川の浦の海
神浦 包

神奈川の浦の海
神浦 包

神奈川の浦の海
神浦 包

猿人渡橋

持存

京の海も熊野の橋もいふもいふのいふもいふ

其橋

玉環の道より少くおぼれおぼれは水もいふもいふ

法意

まもりまもりまもりまもりのまもりまもり

名所実

京周

おぼれおぼれおぼれおぼれおぼれおぼれ

海中

東海の花も水もいふもいふのいふもいふ

法見実

法見実みくらむのいふもいふのいふもいふ

第

く月の法もいふもいふのいふもいふ

法月越実

おぼれおぼれおぼれおぼれおぼれおぼれ

故郷

昌敷

おぼれおぼれおぼれおぼれおぼれおぼれ

故郷

おぼれおぼれおぼれおぼれおぼれおぼれ

故郷

頼徳

おぼれおぼれおぼれおぼれおぼれおぼれ

田右松

陰たう軒窓のぼれおぼれおぼれおぼれ

山家橋

千景

のこらむむ山家橋の昔はさかたけの山

山字枚

五好

ふらふら松の林を渡るもよしの山

山館樓

澄心堂

山家橋の昔はさかたけの山

山館樓

山家橋の昔はさかたけの山

眺る

有岑

山家橋の昔はさかたけの山

朝眺る

後人志

山家橋の昔はさかたけの山

あか
東の方
ふく風

夕眺る

並好

かきく大氣を渡る山家橋の昔はさかたけの山

海眺る

あまのなまよの山家橋の昔はさかたけの山

湖郷

あまのなまよの山家橋の昔はさかたけの山

海を眺る

宗平

あまのなまよの山家橋の昔はさかたけの山

あまのなまよの山家橋の昔はさかたけの山

昌敷

あまのなまよの山家橋の昔はさかたけの山

猿のつらみおしり

くまのつらみおしり

猿

華文

山歌

くまのつらみおしり

くまのつらみおしり

猿

漢文

くまのつらみおしり

くまのつらみおしり

くまのつらみおしり

猿

くまのつらみおしり

猿

常清

くまのつらみおしり

猿

守雄

山歌

くまのつらみおしり

猿

夢好

くまのつらみおしり

猿

重乾

くまのつらみおしり

猿

正貞

くまのつらみおしり

猿

夢好

くまのつらみおしり

浦松

浦松の可なり 浦松の可なり 浦松の可なり 浦松の可なり

久敬

年月をさしおぼゆる 浦松の可なり 浦松の可なり 浦松の可なり

名所松

長隆

浦松の可なり 浦松の可なり 浦松の可なり 浦松の可なり

久敬

浦松の可なり 浦松の可なり 浦松の可なり 浦松の可なり

清樹

浦松の可なり 浦松の可なり 浦松の可なり 浦松の可なり

永知

浦松の可なり 浦松の可なり 浦松の可なり 浦松の可なり

御下松

浦松の可なり 浦松の可なり 浦松の可なり 浦松の可なり

浦松の可なり 浦松の可なり 浦松の可なり 浦松の可なり

松風似時雨

祐之

松風似時雨 松風似時雨 松風似時雨 松風似時雨

松風夜方松

永知

松風夜方松 松風夜方松 松風夜方松 松風夜方松

暮山松

暮山松 暮山松 暮山松 暮山松

暮山松 暮山松 暮山松 暮山松

砌木

方忠

砌木の可なり 砌木の可なり 砌木の可なり 砌木の可なり

植木為友

文秋

植木の可なり 植木の可なり 植木の可なり 植木の可なり

苔

文秋

苔の可なり 苔の可なり 苔の可なり 苔の可なり

雨申書

あつちのうらやまの山にけしきよき山ありては

河の深き水はくまの川にけしきよき水ありては

あつちのうらやまの山にけしきよき山ありては

鶴

あつちのうらやまの山にけしきよき山ありては

あつちのうらやまの山にけしきよき山ありては

鶴

あつちのうらやまの山にけしきよき山ありては

鳥

あつちのうらやまの山にけしきよき山ありては

浦

あつちのうらやまの山にけしきよき山ありては

文

あつちのうらやまの山にけしきよき山ありては

名

書

あつちのうらやまの山にけしきよき山ありては

野鳥

鳥のあはれをうきうきとけえりてはるる鳥の浦
高林鳥のあはれをうきうきとけえりてはるる鳥の浦

いづれ夕のさきさきひねれにさきさきあはれをうきうきとけえりてはるる鳥の浦

おまよふのあはれをうきうきとけえりてはるる鳥の浦

さきさきとけえりてはるる鳥の浦

花のあはれをうきうきとけえりてはるる鳥の浦

中まよふのあはれをうきうきとけえりてはるる鳥の浦

遠村鶏

おまよふのあはれをうきうきとけえりてはるる鳥の浦

おまよふのあはれをうきうきとけえりてはるる鳥の浦

おまよふのあはれをうきうきとけえりてはるる鳥の浦

おまよふのあはれをうきうきとけえりてはるる鳥の浦

池亀

野鳥

鳥のあはれをうきうきとけえりてはるる鳥の浦

おまよふのあはれをうきうきとけえりてはるる鳥の浦

さきさきとけえりてはるる鳥の浦

花のあはれをうきうきとけえりてはるる鳥の浦

中まよふのあはれをうきうきとけえりてはるる鳥の浦

遠村鶏

おまよふのあはれをうきうきとけえりてはるる鳥の浦

おまよふのあはれをうきうきとけえりてはるる鳥の浦

おまよふのあはれをうきうきとけえりてはるる鳥の浦

おまよふのあはれをうきうきとけえりてはるる鳥の浦

池亀

此のころは... 山寺

健男

ま... 刀

... 筆

... 文社

... 永章

題不知

埋木

山寺... 三紫

... 永元

寺近少彦

... 弘章

古寺筑

... 古寺台

古寺松

... 古寺

湖と舟

... 千枝

山頭待取

...

...

千枝

はくしつの中を流るは海に
重見
とよみよのいづれも
千枝

あまのつらさきくちの
若如

あまのつらさきくちの
若如

あまのつらさきくちの
若如

あまのつらさきくちの
若如

あまのつらさきくちの
若如

山彦

昌敷

いづれよりいづれより
福大明神の少ね供
清樹

あちこちをいづれより
元賞

あちこちをいづれより
重見

あちこちをいづれより
重見

人丸のやうな
あまのつらさきくちの
重見

一しん
糸

新紀

らねの愛ありしを
東寺の坊へ
毛筆の
その
魚路の
さ
少
ら
あ

新紀の

新紀

浦人のあ

柿

放魚

國典科臣

厭悪

希芳

言

清意

題

行方
だ
お
り

ふゆのあまのうき代りしむらさきこいしむらさき幸崎の松
難ひしむらさき
るふゆのあまのうき代りしむらさきこいしむらさき幸崎の松
ふゆのあまのうき代りしむらさきこいしむらさき幸崎の松

ふゆのあまのうき代りしむらさきこいしむらさき幸崎の松
今東屋のうき代りしむらさきこいしむらさき幸崎の松

ふゆのあまのうき代りしむらさきこいしむらさき幸崎の松
二百十日のうき代りしむらさきこいしむらさき幸崎の松

ふゆのあまのうき代りしむらさきこいしむらさき幸崎の松
事しむらさき幸崎の松

ふゆのあまのうき代りしむらさきこいしむらさき幸崎の松
ふゆのあまのうき代りしむらさきこいしむらさき幸崎の松

ふゆのあまのうき代りしむらさきこいしむらさき幸崎の松

幸崎

あまのうき

幸崎

ふゆのあまのうき代りしむらさきこいしむらさき幸崎の松

幸崎

ふゆのあまのうき代りしむらさきこいしむらさき幸崎の松

幸崎

ふゆのあまのうき代りしむらさきこいしむらさき幸崎の松

ふゆのあまのうき代りしむらさきこいしむらさき幸崎の松

ふゆのあまのうき代りしむらさきこいしむらさき幸崎の松

親督の書

志あるは... 弘章

あまふ... 社... 親山

待... 女雄

伯夷... 忠記

一... 常清

一... 昌敷

壽老人

く... 常清

女思女

玉... 昌敷

王能君

か... 永知

お... 常清

限... 昌敷

ゆ... 昌敷

西施

転

お... 昌敷

限... 昌敷

ゆ... 昌敷

くちかひのあつたてのしんがらにたのむはまゝにまゝに

昔の下流もあつたてのしんがらにたのむはまゝにまゝに

西行のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

西行菴 吉野記のしんがら

らうにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

目よりまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

妻の三十三面志の時三十三首の歌は付のまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

いとせまきまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

仙光寺先御門主御追悼 船附

いとせまきまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

年を經ぐればまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

千鳥 川

いづれにまはるるの深きもさしあはれぬるの浅きも
お寺 追悼

御事
あつた
懐舞
可一

うき世の志のたふしの多き世のたふしの少き世のたふしの
あまの志のたふしのたふしのたふしのたふしのたふしのたふしの
たふしのたふしのたふしのたふしのたふしのたふしのたふしの
播大納言云迪云御隠後懐の

面影をうき世のたふしのたふしのたふしのたふしのたふしのたふしの
懐の
連胤

あまの志のたふしのたふしのたふしのたふしのたふしのたふしの
懐の
無元
勝祿

いづれにまはるるの深きもさしあはれぬるの浅きも
秋懐の
後人不知

秋のつらさをいづれにまはるるの深きもさしあはれぬるの浅きも
清樹

秋のつらさをいづれにまはるるの深きもさしあはれぬるの浅きも
長経

秋のつらさをいづれにまはるるの深きもさしあはれぬるの浅きも
寿良

秋のつらさをいづれにまはるるの深きもさしあはれぬるの浅きも
安子御方

秋のつらさをいづれにまはるるの深きもさしあはれぬるの浅きも
後人不知

事のあらはれをゆへにわたりておぼしめし奉る

君の代を報るゆへにわたりておぼしめし奉る

ほのろけおぼたしむるまじく候へども

幸文

みあたさぬまじく候へども

千枝

祝言
取方のあらはれをゆへにわたりておぼしめし奉る

重見

さしよせおぼたしむるまじく候へども

公隆朝臣

此れはたしむるまじく候へども

公修朝臣

あはれおぼたしむるまじく候へども

公憲朝臣

何事と申すは

常清

おぼたしむるまじく候へども

建辰

らう計をもちおぼたしむるまじく候へども

昌敷

おぼたしむるまじく候へども

おぼたしむるまじく候へども

とていへばちよの秋は月とてはなれりよとていへば

正高

春の光のたよりよき一葉に花をさかすまはるる

法樹

さきよの光のたよりよき一葉に花をさかすまはるる

華文

さきよの光のたよりよき一葉に花をさかすまはるる

有章

さきよの光のたよりよき一葉に花をさかすまはるる

可信

さきよの光のたよりよき一葉に花をさかすまはるる

寿祝

さきよの光のたよりよき一葉に花をさかすまはるる

夏祝

さきよの光のたよりよき一葉に花をさかすまはるる

さきよの光のたよりよき一葉に花をさかすまはるる

秋祝

さきよの光のたよりよき一葉に花をさかすまはるる

信人

さきよの光のたよりよき一葉に花をさかすまはるる

冬祝

さきよの光のたよりよき一葉に花をさかすまはるる

春祝

浮橋の跡...の神代...の家の通
 後人不知
 天也...の道...の...
 幸文
 天也の道...の...
 神代...の...
 天也の...の...
 均光公
 均光公
 均光公
 均光公

均光公の...の...

康民	残夢	敏樹	信岩	重高
高橋始正澄云	木村	小泉		
勝房	真好	清樹	重見	勝福
魚谷	上原半号重園			
木子	真子	嘉之	清根	聞戒
西村	真子	本昌敷子	松園坊	
泰之	正純	國典朝臣	頼厚	一成
留	久敬	知紀	玄如	快存
	多	田		櫻本坊
清光	紀成	信秀	知晴	嘉邦
	思	北山	大塚	
長経	節	信好	連胤	民一中村
	菅名		終底	
法顔	正賢	重樹	假菴	相一
		澤		平賀
簾子	斐雄	維中	頓惠	文秋
平賀	菅沼	藤田		豊原
安藝			觀山	刀美子
章子	宗敬	景周	松梅院北野	高畑式部
光福寺		香川		前名
時子御方	秋長	熊夫	儀貞	守雄
	妻座	森		

宗明尼	可官	公隆朝臣	康哉	雪子	忠友	資雄	祐之	千益	自休	勝弼
	赤尾 九京		文室	井上	穗井田	樺山			中川	
春樹	方忠	明阿	正行院	尹諄	秀雄	言真	意誠	惟學	夢宅	榮重
櫻井	吉備 岸本忠助		佛光寺殿旁			菊丘	三宅		桃澤	越後
公迪卿	芳子	孝子	惠子	寬	常清	幸文	詔	義比	繁樹	真雄
			伊賀守	坂上	朝山	木下民藏		位田	安宅	
阿元	長好	誠子	信敦	畜足	景欣	知妙尼	江月	慶封	望樹	清賢
惟孝	良孫	昌敷	忠	古香	純言	慶順	永知	清意	惠岳	良盛
		宋駿河守		神谷外子扶園	吳山	大僧都			常樂寺	

房富	千秋	芳	清安	元名	定家	萬元	真澄	重遠	重就	廣伴
西御 薩州	佐藤		山田 薩州		富山				河野	
通禮	雅高	景明	春景	國風	正旭	負經	公修卿	齡	元成	安材
				田和紀前名			三條 大納言	柏原孫九郎妻	屋下	
光輔	負隨朝臣	夜紗	綱子	聞家	公憲朝臣	義言	布芳	寿性	百雄	近子
				藝州慈心寺				宋		
正高	負	智元	尊親	谷木	春良	宗達	あ子	俊教	一清	賴寬
丹羽		大塚		岳雲軒		光福寺		飯野		
正寿	賴德	元幹	弓子	夏香	好古	世濟	歸厚	昌季	郁子	莊嚴寺
		山科		本田源四郎		佐木	柘岡			

雪道	嘯月 <small>真村</small>	繁	重豐	忠辰
寬隆	喜良	茂文	長詮	信成
聖元 <small>重吉</small>	高岑	隆壽 <small>篠崎</small>	重修	尹諒
弘章	直治	吉洲	盛樹 <small>信州</small>	美玉氏
弓雄 <small>木村</small>	滝守	梁岳	潤	顯誓
信直	含光	正綏	紀言 <small>山</small>	元子
有融	永章	一城	安雄 <small>渡志秋</small>	眉生 <small>内山</small>
知正 <small>大西</small>	台寔 <small>定</small>	貞童	真弓 <small>内山 信州松本</small>	隆昌
言真	渾泊	台空	近磨	和義 <small>中島</small>
蓬齋	元古 <small>森元次郎</small>	臺	一也	吉邦
安子郎方 <small>柳原均光 妻</small>	厚德	正德	之ぬ	直雄

浪の上 導	魔主	義勇 <small>伊田勤丸門</small>	包	徳義
寿性	有岑 <small>高</small>	宗平	宣義	孝一 <small>石田</small>
来山	元賢	豊長 <small>氷室 長翁</small>	大成 <small>都筑</small>	水月 <small>法性寺</small>
久浮	應專	一情	忠良	重就母 <small>河野</small>
賈寿	可一	基永 <small>池田</small>	直貞	綾雄
隆元 <small>柳原伯先 代</small>	有章	均光公 <small>柳原</small>	重明 <small>小泉勲貞 出子五十番松谷</small>	行敬 <small>青木 同上</small>



